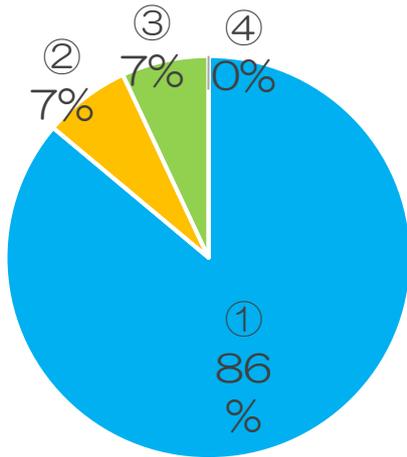


2 アンケート結果

今回の調査についてアンケートを行った結果、61人の方から回答をいただきました。
ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。
結果は以下のとおりです。（ご意見・感想等は一部抜粋して掲載しています。）

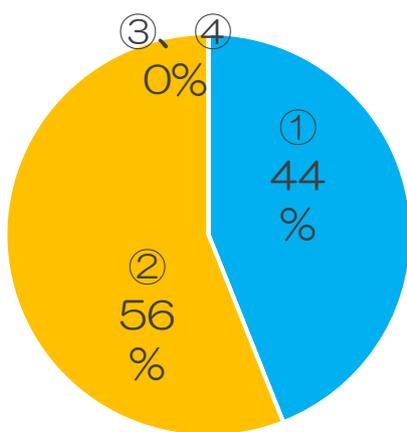
1. どれだけの区域を調査しましたか。



① 1～4メッシュ	53人	(86%)
② 5～9メッシュ	4人	(7%)
③ 10メッシュ以上	4人	(7%)
④ 無回答	0人	(0%)

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続き、
広範囲の調査が難しい年でした。そうした中でも多く
のご報告を頂き、大変感謝しております。
ぜひ来年も無理のない範囲でご協力をお願いいた
します。

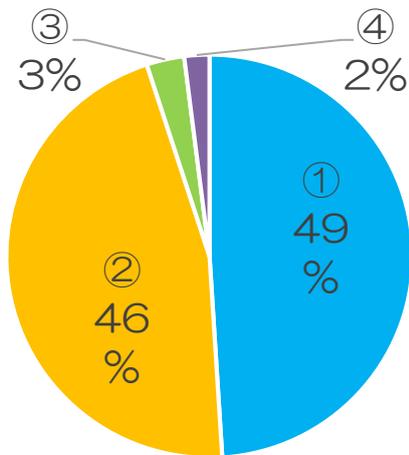
2. 何人で調査しましたか。



① 一人で調査した	27人	(44%)
② 家族で調査した	34人	(56%)
③ グループで調査した	0人	(0%)
④ 無回答	0人	(0%)

今年度は家族で調査した方が最も多くなりました。
この調査が親子やご夫婦などご家族で過ごす時間の
一部になっていることを大変嬉しく思います。また、
一人でじっくり自然に向き合う時間を作るのも素晴ら
しいことですね。これからもレポーターの皆さんそれ
ぞれのスタイルで調査に臨んでください。

3. 動植物の見分けについてはどうでしたか。

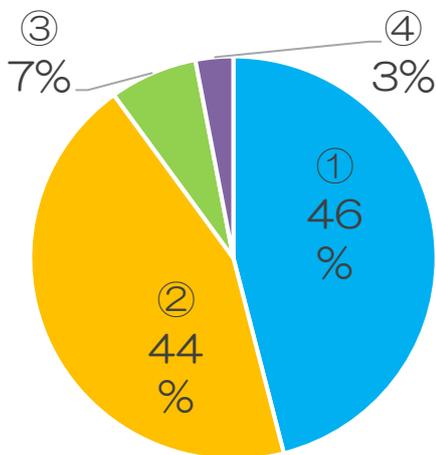


【鳥】

①親しみやすい	30人	(49%)
②見分けが難しい	28人	(46%)
③全然分からない	2人	(3%)
④無回答	1人	(2%)



- ・アオバズク、オオヨシキリは、見たとしても分からないままになってしまう。
- ・近頃いろいろな鳥が庭木に来るのですが、確かめようとするうちに飛び立ってしまうので本当に難しいです。鳴き声の判別も難しいです。
- ・植物や、動きの遅い昆虫などはグーグルでその場で知ることができるが、鳥類は難しいので季節ごとに観察会等をやってほしいと思います。



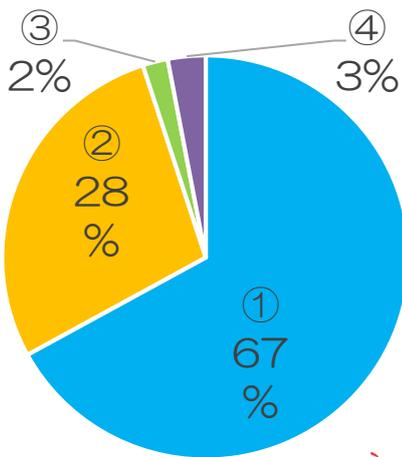
【植物】

①親しみやすい	28人	(46%)
②見分けが難しい	27人	(44%)
③全然分からない	4人	(7%)
④無回答	2人	(3%)



- ・植物はよく探さないで見分けがつきにくいのですが、今年はアギナシ（オモダカ）を見つけられて嬉しかった。
- ・ガマズミ・・・わかりにくい。
オモダカとアギナシ・・・農薬を使うため見られない？

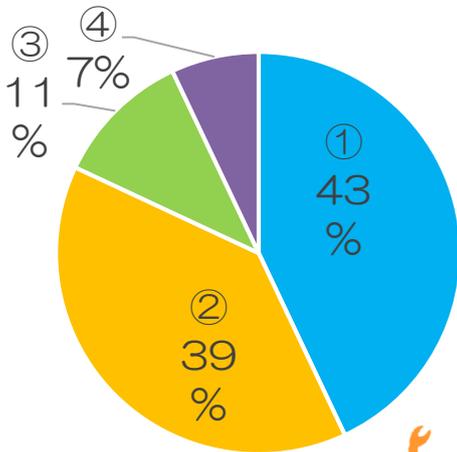
* 植物の分類に関するフローチャートについては、70ページをご覧ください！*



【昆虫】

① 親しみやすい	41人	(67%)
② 見分けが難しい	17人	(28%)
③ 全然分からない	1人	(2%)
④ 無回答	2人	(3%)

- ・タテハチョウの模様などはガイドブックのような資料があると分かりやすい。
- ・チョウやトンボの見分けが難しいです。



【水辺の生き物】

① 親しみやすい	26人	(43%)
② 見分けが難しい	24人	(39%)
③ 全然分からない	7人	(11%)
④ 無回答	4人	(7%)

- ・マシジミとタイワンシジミの見分けが難しい。近所の小川や用水路に殻がたくさんあり、家庭が流した物でもないということなので非常に悩むところです。



「探そう！ 気になるいきものたち」のコメントにも書かせていただきましたが、マシジミは、「からの頂上部分が白くはげ落ちる」といいますが、個体差等もあるため、実際見分けることが難しいと思います。正確に見分けるには専門的に調べることが必要です。

環境レポーター検討委員会としては、レポーターの皆さんに、身のまわりの自然の変化に興味を持って観察していただくことが大切だと考えています。今回の感想にあったように、「近所の家庭が貝殻を流したりしたものではない」ことまで調べていただいたことは、素晴らしいと思います。死骸や殻がたくさんあったという報告を提出していただくだけでも、素晴らしいデータでいろいろ参考になると思います。毎年、真剣に取り組んでいただきありがとうございます。

4. 調査ガイドや各調査票、メッシュ地図等お配りした資料について、改善点など ご意見がありましたらご記入ください。

【メッシュ地図について】

- メッシュ地図を折ったまま使うことが多いので、左と下にも番号を振って頂くと使いやすいです。
- 地図は最新のものでお願いします。
- 地域別に大きくしてほしい。
- 老眼が進み、メッシュ地図で現地を探るのが徐々に厳しくなりつつあります。メッシュごとに公共施設やコンビニ等の目印がある場合、例えば市役所は19-63のようにこの施設はこのコードとガイドがあると見やすく、早く使えるのではないかと思います。ご意見、提案させていただきました。

メッシュ地図についての貴重なご意見、誠にありがとうございます。

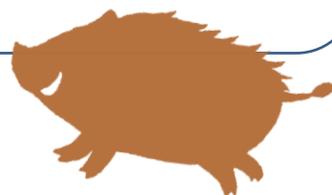
メッシュ地図の次回の更新は数年先になってしまうと思われませんが、皆さんからいただいた意見を可能な限り反映できるよう努めます。皆さんにとって使いやすい地図を目指したいと思っておりますので、今後も気づいたことがありましたらぜひお知らせください。

【その他のご意見など】

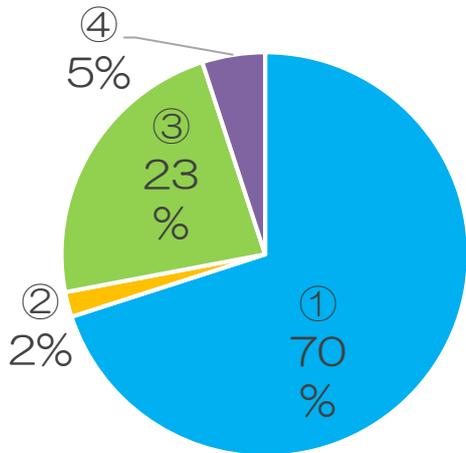
- 生き物探しの際に腕章やバッジなど「生き物の調査をしています」とわかる物があると良いと思う（不審がられることがあったので）。
- アプリで報告できるようになったら良いと思います。すぐに報告できたり位置情報もスマートフォンから取得したりと、便利だろうと思います。
- 調査結果を地図上で表示していただいているので、未確認地域で新たに発見する意欲が掻き立てられました。

調査に関する貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。

ご意見のとおり、腕章（レポーター証など）、スマートフォンからの報告などが利用できればより快適に調査・報告ができると思います。すぐにすべてを導入するのは難しいのですが、皆さんが快適に調査できるよう、ご意見をもとに検討・研究を重ね、事業の改善を図って参りたいと思います。



5. 今後このような調査があれば参加しますか。



①ぜひ参加したい	43人	(70%)
②参加したくない	1人	(2%)
③わからない	14人	(23%)
④無回答	3人	(5%)

- 今年度も子どもたちと楽しく参加させていただきました。調査の対象の生き物が見つかるたびに会話が増えています。また次年度も楽しく参加させていただきたいと思います。
- 来年もまた頑張りたいと思います。
- 見分けをするのがむずかしかったけど、また来年もやりたい。いろいろな昆虫や植物、鳥など生き物を前よりもたくさん知れてよかった。
- モチベーションが保てない。春は意識が向いているが、そのあとは個人でやるのは難しい。観察会やセミナーのようなものがあるといいと思う。
- 今年はあまり活動できませんでした。娘は生き物に親しみを持って過ごすきっかけとなっています。娘が付き合ってくれるうちは引き続き参加したいと思います。

多くの方から来年度も参加したいとお声を頂き、またご家族で楽しく調査に参加していただいているようすも伺え、大変嬉しく思います。

モチベーションが保てないのご意見も頂きました。一年通して調査を続けるのは難しいと思いますが、気が付いたときだけでも構いませんので、自然や生き物たちに目を向け、生き物に親しみを持って過ごすきっかけにいただければ幸いです。また、当課では年に数回「環境観察会」を開催しております（※コロナの影響で中止になる場合もあります）ので、ぜひそちらにもご参加ください。

我々も皆さんに楽しく調査を続けていただけるよう、工夫を重ねてまいります。今後ともレポーター事業にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

6. 今回の調査についてご意見やご感想がありましたらご記入ください。

また、調査をする中で気が付いたこと（自然環境の変化、生き物の変化など）がありましたら、ご記入ください。

※皆さんからお寄せいただいた意見・感想から抜粋し、漢字や文章の表現など意図を変えない範囲で修正を加えて掲載しています。問3にご回答いただいた意見等の一部もこちらに掲載しています。

<鳥>

●袋川でカワセミに何回も会えました。



▲カワセミ
(レポーター提供)

●野鳥について、名草川が近いことでカワセミの声は耳にする機会が平地よりも多かったのですが、今年は目の前を飛んで、さらには望遠で撮れる範囲の木の枝に止まってくれたので、やっと念願の姿を撮影できました。やはり綺麗なコバルトブルーでした。

ダイサギについても田んぼで稲を刈り取ったあと、エサが取れなくなったからなのか、空き地にいる昆虫を捕るためにしばらくいました。警戒心が強い大型の野鳥には近くで遭遇することが少ないので、じっくり観察させてもらえて良かったです。

●アオバズクの鳴き声を確認することができましたが、実際に鳴いている姿を見ることができず残念でした。

●この頃、スズメ、トンボなどをあまり見かけなくなりました。前はもっといたと思うのですが。

季節の野鳥が少なくなっているのでしょうか。自分のまわりでは、少しになっています。

●小鳥が少なくなったと思う（ヒバリ、ホトトギス、ウグイス）。今まで毎年鳴いていた田んぼにヒバリがいなくなった。

近年、ツバメ、イワツバメ、アオバズク、フクロウ、カワセミなどが減っています。特にヨタカ、カッコウなどは足利では見られなくなりました。原因は分かっていません。

●3月23日 赤松台2丁目で1羽のハシブトガラスが電線の接続カバーの黒い部分を口ではがして運んでいきました。巣を作る材料になるのでしょうか。

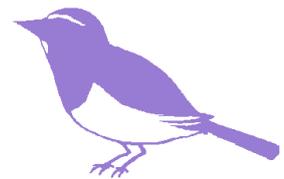
6月23日 ツバメの巣に近寄ろうとしたオナガを、ツバメが追い払っているところを見ました。オナガはあきらめて飛び去りました。

●2月に足利公園で4羽のイカルが死んでいたのが時節柄鳥インフルエンザかと思ったのですが、そうでないとのことでした。火事の最中だったので煙でも吸ったのでしょうか。

●梅の花の咲くころに鳴きだすウグイスの声が例年は3月～9月頃まで聞けたのに、5月頃からたくさんのガビチョウがやってきて毎日大きな声で朝早くから一日中鳴いており、ウグイスの声を数回しか聞くことができませんでした。

●今までの鳥でも改めて見て新発見がありました。

●スズメが多い。年々増えている感じです。



<植物>

●普段一人で植物観察をしています。その中で環境レポーター事業に該当する植物をチェックしました。来年度も参加できれば、鳥や昆虫も調査したいと思います。

植物の調査結果をご報告いただき、ありがとうございます。調査種以外の植物も見つけたら「新・珍発見」としてぜひご報告ください。また、鳥や昆虫の調査結果もお寄せいただければ幸いです。次年度の継続参加、調査報告お待ちしております！

●身近な雑草(カタバミ、ハコベ、オオバコなど)なども報告するのにかいつも悩んでいます。

身近な雑草も報告していただいて構いませんので、ぜひ次年度は報告に加えてください。情報お待ちしております。

●今年^{ことし}はキンモクセイが2回^{かいさ}咲きました。1回目^{かいめ}は少し早く^{すこはや}咲いて2回目^{かいめ}はいつものように10月^{がつ}に入って^{はい}からでした。これも環境^{かんきょう}の変化^{へんか}でしょうか？

●キンモクセイが3度^どにわたって開花^{かいか}しました。1回目^{かいめ}：9/10、2回目^{かいめ}：10/3、3回目^{かいめ}：10/26。

キョウチクトウが夏^{なつ}に花^{はな}を咲かせないで、11月^{がつ}に咲いています。

●植物^{しょくぶつ}について、あまりよく分^わからないのですが、今年^{ことし}は徒花^{あだばな}（※）を咲^さかせた植物^{しょくぶつ}が多^{おほ}かったと感^{かん}じました。特筆^{とくひつ}すべきはキンモクセイの2度^ど咲きです。9月^{がつ}中^{ちゆうじゆん}旬^{じゆん}に咲き始めて終^おわり、1ヶ月^{かげつ}後の10月^{がつ}中^{ちゆうじゆん}旬^{じゆん}にも咲きました。この現象^{げんしょう}は足利^{あしかが}だけでなく、全国的^{ぜんこくてき}にも起きたようすでした。キンモクセイ以外^{いがい}の植物^{しょくぶつ}だと、6月^{がつ}には利保^{かかほちよう}町^{ちやう}でコスモスが咲^さいていたのを見^みました。秋^{あき}になり、一度^{いちど}実^みり終^おえた桃^{もも}の木^きに一輪^{いちりん}だけ花^{はな}が咲^さき、プルーンについて同^{どう}様に実^みりを終^おえてから数輪^{すうりん}花^{はな}が咲^さきました。園芸^{えんげい}品種^{ひんしゆ}のツツジも数輪^{すうりん}花^{はな}が咲^さきました。ひと^{ひと}は寒^{かん}暖^{だん}差^さで体^{たい}調^{ちよう}を崩^{くず}すと言^いわれますが、それも植物^{しょくぶつ}は同^{おな}じようだとおもいました。

※徒花^{あだばな}・・・咲^さいても実^みを結^{むす}ばない花^{はな}。むだ花^{はな}とも。

今年^{ことし}の植物^{しょくぶつ}に関する出来事^{できごと}として記憶^{きおく}に残^{のこ}っているのは、やはりキンモクセイの2度^ど咲きでしょう。所^{ところ}によっては3度^ど咲いたところもあるようです。

調べたところ、キンモクセイは8月^{がつ}上^{じゆうじゆん}旬^{じゆん}ごろに花芽^{はなめ}が分化^{ぶんか}し、秋^{あき}に開花^{かいか}しますが、開花^{かいか}のタイミングは気温^{きおん}の影響^{えいぎやう}を受けるようです。気温^{きおん}が高いほど開花^{かいか}時期^{じき}が遅^{おそ}く、2度^ど咲きについては地球^{ちきゆう}温暖^{おんだん}化^かとの関連^{かんれん}も指摘^{してき}されているようです。

気温^{きおん}の変化^{へんか}と開花^{かいか}のタイミングに着目^{ちやくもく}して、私^{わたし}なりに考察^{こうさつ}してみました。昨年^{さくねん}の8月^{がつ}～9月^{がつ}の気温^{きおん}を見ると、8月^{がつ}下旬^{ちゆうかん}まで最高^{さいこう}気温^{きおん}が30℃前後^{ぜんご}だったのが、9月^{がつ}に入^{はい}った途端^{とたん}20℃近く^{ちかく}に落ち^おち、涼^{すず}しい日^ひが数日^{すうじつ}間^{かん}続^つきました。一度^{いちど}目の開花^{かいか}が9月^{がつ}10日^{じつ}頃^{ころ}でしたので、この急^{きゆう}激^{げき}な気温^{きおん}の変化^{へんか}がキンモクセイの開花^{かいか}に影響^{えいぎやう}を与^{あた}えたと考え^{かんが}られます。また9月^{がつ}中^{ちゆうじゆん}旬^{じゆん}になると最高^{さいこう}気温^{きおん}が概^{おおよ}ね30℃前後^{ぜんご}の日^ひが続^つきましたが、9月^{がつ}25日^{にち}に20℃近く^{ちかく}に下^さがりました。二度^{にど}目の開花^{かいか}は10月^{がつ}頭^{あたま}でしたので、この気温^{きおん}の低下^{ていか}が関係^{かんけい}しているのかもしれませんが。

キンモクセイの2度^ど咲きは珍^{めづら}しいことではないようで、今年^{ことし}度^どと同じ^{おな}じような気象^{きしやう}条^{じょう}件^{けん}があればまた2度^ど咲きを見ること^みができる可能性^{かのうせい}があります。毎年^{まいとし}甘い香^{かほ}りで私^{わたし}たちを楽^{たの}しませてくれるキンモクセイですが、これからは気温^{きおん}と開花^{かいか}との関係^{かんけい}に着目^{ちやくもく}して観^{かん}察^{さつ}すると、面^{おも}白^{しろ}い気^き付^づきを与^{あた}えてくれるのかもしれませんが。今年^{ことし}の8月^{がつ}～9月^{がつ}は、気温^{きおん}がぐっと下^さがったら「もしかしてそろそろキンモクセイが咲^さくかも？」と考^{かんが}えながら開花^{かいか}を楽^{たの}しみに待^まちたいと思^{おも}います。

● 植物の観察会を増やしてください。

● 南の地域でミゾコウジュを発見することができて安心しました。

野草の花は、図鑑に載っている写真は拡大してあるものが多く、実際に発見して実物のイメージが大きく変わりました。

河川堤防の多くにナヨクサフジが繁茂していました。農業用の緑肥として使用されることも多いことから、台風などの増水等によって農地から流出して増加したのかと思われる、以前には見られなかった外来種の量の多さに驚きました。

● タンポポやアザミなどは見分けが難しい。

タンポポとアザミの特徴を書き出してみました。見かけた花がこれらの特徴に当てはまれば、タンポポ（もしくはアザミ）である可能性が高いです。

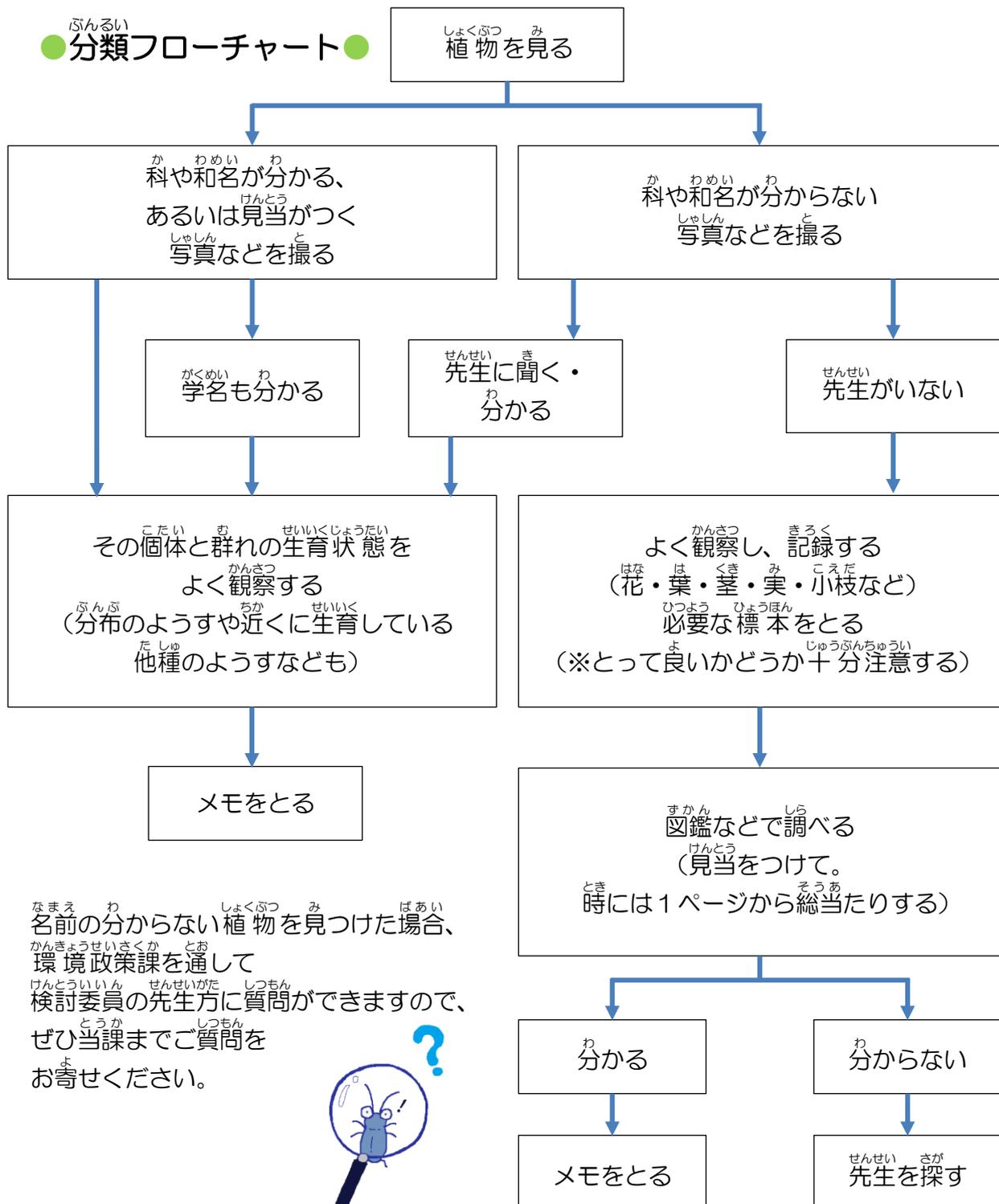
	タンポポ	アザミ
花の色	黄色か白	ほとんど赤紫色
茎と葉	茎には葉をつけない 茎を切ると白い液が出る	茎に葉をつける 茎を切っても白い液は出ない
トゲ	茎や葉にトゲはない	ほとんどのアザミはトゲがある
足利で見られる 主な種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在来タンポポ ・ 外来タンポポ ・ シロバナタンポポ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノアザミ ・ ノハラアザミ ・ ヒレアザミ ・ トネアザミ ・ アズマヤマアザミ

アザミの他にタンポポと間違いやすい花で、ハルノノゲシ、オニタビラコ、オオジシバリ等がありますので、図鑑などで事前に調べてから調査に出掛けると良いと思います。

● 植物は見分けるのが難しかった。

見分ける基本は、やはり植物の特徴をよく観察することではないでしょうか。出会った植物に花があればその花を、なければ葉や茎や枝、時には根を観察して、特徴を見つけ図鑑も利用して植物名を決めてください。
参考にその過程を図式化したフローチャートを示してみました。

● 分類フローチャート ●



名前が分からない植物を見つけた場合、環境政策課を通して検討委員の先生方に質問ができますので、ぜひ当課までご質問をお寄せください。



<昆虫>

●今年^{ことし}はミノムシ^{ちい}が小さなものから大きなものまでたくさんいておどろいた。

●秋^{あき}の虫^{むし}の声^{こえ}について、ウマオイ、コオロギ、本当^{ほんとう}に久しぶり^{ひさ}りに聞き^きました。秋^{あき}の夜長^{よなが}を楽し^{たの}しむことができました。

●今年^{ことし}、家^{いえ}のまわりなどでスズムシ^{こえ}の生^きがする気がします。もしかして、ホームセンターなどで売^うっている、スズムシ^{いくせい}育成^いセットの生^いき残り^{のこ}りとかいるのでしょうか？

ホームセンターなどで売^うっているスズムシ^{いくせい}育成^いセットの生^いき残り^{のこ}りは、スズムシにとりよう^{りよう}かんきよう^{かんきよう}であれば十分^{じゅうぶん}生きていけるとおもいます。良好^{りよう}な環境^{かんきよう}とは林^{はやし}の縁^{ふち}や草^{くさ}むらです。

スズムシ^{わた}は渡^ら瀬^せ川^{がわ}には確^{かく}実^{じつ}に生^{せい}息^{そく}していますので、足利^{あしかがし}市^{ひろ}には広^{せい}く生^{そく}息^{そく}しているもの^{おも}と思われる^{おも}ます。

野^や外^{がい}で鳴^なき声^{こえ}を聞^きくのは意^い外^{がい}と大^{たい}変^{へん}で、2~3m離^{はな}れてしま^なうとわからなくな^なってしま^ないます。ましてや外^{がい}来^{らい}昆^{こん}虫^{ちゅう}のオオマツムシ^{こえ}の生^{せい}が大きい^{おお}ところでは聞^きき取^とれな^ないほど^{ほど}です。

ネッ^なト^{むし}などで「鳴^なく虫^{むし}」と検^{けん}索^{さく}するといろいろな鳴^なく虫^{むし}の生^{こえ}を聞^きくことができますので、念^{ねん}のためお聞^ききにな^なった虫^{むし}が何^{なに}であ^{たし}ったのか確^{たし}かめ^めることもできます。

●今年^{ことし}はアキアカネ^しの時^じ期^きが短^{みじ}かったのか、飛^とんでいるよう^{よう}でしたが止^とまらな^ないので判^{はん}断^{だん}でき^きませんでした。ヒグラシ^{わす}のチエ^ちック^くを忘^{わす}れました。

●今年^{ことし}は蝉^{せみ}時^{とき}雨^{あめ}を聞^きくことができました。(ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、アブラゼミ。)

●今年^{ことし}の2月^{がつ}は足利^{あしかがし}市^しの自^じ然^{ぜん}にとつて未^み曽^{そう}有^うの大^{だい}惨^{さん}事^じにな^なった山^{やま}火^か事^じが発^は生^{せい}し、動^{どう}植^{しょく}物^{ぶつ}の発^は生^{せい}につい^{たい}て多^た大^{だい}な影^{えい}響^{きやう}がで^でるもの^{もの}と思^{おも}っていま^{いま}した。実^{じつ}際^{さい}に春^{はる}にな^なり、ハルゼミ^{すがた}の姿^{すがた}も生^{こえ}も確^{かく}認^{にん}でき^きませんでした。

ゼミ^{せみ}につい^{たい}て、昨^{さく}年^{ねん}はアブラゼミ^{すがた}の姿^{すがた}が見^みられず、このま^{らい}ま^{ねん}では来^{らい}年^{ねん}(今^{ことし}年^{なつ}の夏^{なつ})にはも^もっと減^へってしまうのか?と危^き惧^くして^{して}いたとこ^{くる}ろ、車^{くるま}で通^{とお}り過^すぎただ^{ただ}けでも信^{しん}号^{ごう}待^{まち}ちのた^たびにアブラゼミ^なの鳴^なき声^{こえ}を耳^{みみ}にでき、自^じ宅^{たく}でもその姿^{すがた}を確^{かく}認^{にん}でき^きました。少^{すこ}しホッとし^しました。ミンミンゼミ^{れい}やツクツクボウシ^{ねん}は例^{れい}年^{ねん}通^{とお}りの感^{かん}覚^{かく}では^はた、や^ややヒグラシ^はの発^は生^{せい}を少^{すく}

なく感じました。ヒグラシの朝夕の連れ鳴きを聞くと、その声から涼しさを感じられ、個人的に好きなので、残念な気がしました。ニイニゼミについてもやや少なくて感じました。

● 昨年はセミが少なかったのが気になったが、今年は増えた感じがする。

● 今年度も天候が不順で夏らしくなかった。セミの数も少なかった。発生の時期もズれていたようです。

セミに限らず昆虫は年によって個体数の変化はあるものと思います。したがって、複数年単位での変化がどうだったのかということが重要だと思います。最近では気候変動が著しく、変化を調べることは重要になるものと思います。

セミは種類によって好む環境が違います。東京の都心部に生息するセミのぬけがら調査（*吉野，2009）によれば

アブラゼミ：中小規模な緑地が主なすみか。

ミンミンゼミ：高い木が発達した樹林を好む傾向がある。

ニイニゼミ：落葉樹が優先した樹林で低木が少なく明るい樹林。

ツクツクボウシ：連続した林（針葉樹と広葉樹の混交林）がある場所。

ヒグラシ：樹林が多いところ。山林および山林のようなところ。

また自然度のランクは低い順に

I：アブラゼミのみが見られる。

II：アブラゼミ、ミンミンゼミが生息し、アブラゼミの占める割合が90%以上。

III：アブラゼミ、ニイニゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシが生息し、アブラゼミが70~90%。

IV：アブラゼミ、ニイニゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシが生息し、アブラゼミが40~70%。

V：アブラゼミ、ニイニゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、ヒグラシが生息し、アブラゼミが40%未満。

となっています。

*吉野 勲，2009. 東京の都心部に生息するセミのぬけがら調査. 里山の自然研究 (9) : 55-94.

令和3年に足利市の大岩山や行道山の山頂付近でエゾゼミの鳴き声を足利市で初めて聞きました。エゾゼミの仲間は涼しいところが好きなので足利市では高い所しかいないようです。

●今年、ナガサキアゲハを見たのは一度だけでした。その代わりに、コノマチョウを初めて見ました。見たことが無いものが増えると環境の変化＝地球温暖化が否応なく進んできたという指標なのかもしれないと考えるようになりました。変わった昆虫との遭遇は、なんといってもアサギマダラです。昨年もそうでしたが、今年は一度に4頭来ていたのがラッキーでした。フジバカマが咲いていることにどこで気づくのかと不思議です。

●ナガサキアゲハを発見し、その美しさに感動するとともに、本に書かれている北限が上昇していることがわかりました。チョウについてもっと調べてみたいと思いました。アゲハの幼虫を見つけ、ナミアゲハとクロアゲハについて調べました。幼虫期の見分けがつかないのですが、図鑑で見分ける方法を知ることができました。

●9月24日 赤城自然園でアサギマダラがたくさん飛びまわっていました。フジバカマやアザミの花の蜜を吸っているようです。アサギマダラをつかまえると死んだふりをすると説明されていました。手で羽を持ってみると動きを止めて静かにしています。これから1,000～2,000kmも飛んで台湾あたりまで行くそうです。南の島でもいつみられるのかと待っているのでしょうか。足利でもアサギマダラのレポーター調査報告がされていますので、ぜひ見つけてみたいです。

●暖かい日が続いていたので、モンシロチョウなど見るのがとても多くなったような気がします。

●今年、私の大好きなオニヤンマの姿を見ることができず、残念でした。

●6月7日、庭でブウォーンという大きな音。梅の木に200匹はいるかと思われるミツバチのかたまりで、分封（分蜂）です。母女王が働きバチを連れて新しい巣を探そうと、翌日の午前中にはほとんどいなくなりました。

●カメムシは害虫ですが、アオクサカメムシは何年かぶりに見ました。「害虫」とつく虫でもとても数が少なくなっているように思います。今回じっくりと見ましたがとてもキレイな緑色をしていました。害虫だからと殺虫剤や農薬をまくのも絶滅の原因だと感じました。

<水辺の生き物>

●観察をはじめた頃は、赤い大きなアメリカザリガニがいたところにいましたが、今は減少してしまいました。春は小さいのがたくさんいますが、成長するとなぜか見かけなくなります。魚類にいいことだと思いますが、大型の鳥類には心配なことだと思えます。

●県駅工業団地の建設に伴い、どじょうやなまずが減ってしまうので、うまく共存できるように対策が必要だと思えます。

●環境レポーターに参加させていただきながら、カエルについて着目し続けてきましたが、今年は数年ぶりにアマガエルの姿を見ました。たった1匹でしたが、嬉しくなりました。

又マガエルは圧倒的に数を増やしていて、オタマジャクシからカエルになったばかりの小さい又マガエルたちが、畑を歩くと歩みを進めるたびに足元の草むらから弾けるように飛び出してきました。

ウシガエルは自宅にとっても近い池から重低音で発声を繰り返し、実家の池に居付いたウシガエルに至ってはいつもお気に入りの大きな石の上に座っていました。ジャンボサイズのオタマジャクシがいたので、来年以降も重低音の発声を聞くことになりそうです。

ヤマアカガエルの声も数年ぶりに確認できました。カエルは年々減っていると感じます。見られる種類も減りました。

<外来生物など>

●羽刈町下宮地区、矢場川土手とまわりの桜が4～5年前よりクビアカツヤカミキリの被害に遭っております。年々ひどくなっています。

●自宅庭木にクビアカツヤカミキリが見つかったことがショックでした。

●外来生物が増えている。ガビチョウという鳥が増えている、うるさく鳴いている。クビアカツヤカミキリも増えている。イノシシも多く、どの家も柵をしている。

●今回調査に息子と参加させていただいたことで、息子も前より虫の名前をよく調べるようになりました。自分も今まで気がつかなかった身のまわりに暮らしている生き物の実態が分かるようになったことが大きな収穫となりました。ありがとうございます。

我が家のまわりはクビアカを含め外来生物が多く、カエルは7～8割ほどがヌマガエルになっておりびっくりです。アメリカザリガニもたくさんいますし（そういえば芋の森神社の湧き水池の中にもいました。カワモズクに影響がないか心配です）、アカボシゴマダラもよく飛んでいます。10年後、生き物や植物の世界も変わっているのかもしれないなと思いました。息子がつきあってくれるうちにはこうやって一緒にまた調査できたらな、と思います。

●がいらい生ぶつがけっこういた。

皆さんからのご感想にもあるように外来種が増えており、本市では特にクビアカツヤカミキリによる被害が深刻になっています。身の回りに多くの外来生物がいることに関心を持っていただくことは、この調査の重要な意義だと考えています。またそこから足利の自然を守るためにどのようなことができるのか考えるきっかけにさせていただけますと幸いです。

当課はクビアカツヤカミキリの対策・防除に全力を尽くしておりますが、被害が増え続けており、我々の力だけでは対応しきれないのが現状です。引き続き駆除へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

レポーターさんの感想にもあるように、10年後の自然環境や生態系は変化していることでしょう。変化しているといっても、その「変化」は我々がこの先どのような行動を取るかで全く違ったものになると思います。自然や生き物に関心を持つ方が増え、さらに自然を守るための行動をする方が増えれば、豊かな自然が守り継がれていくに違いありません。レポーターの皆さんにはぜひこの先も自然や生き物への関心を持ち続けて頂きたいと思います。

【参考】栃木県では、令和3（2021）年10月に「本県において優先的に対策を行う必要がある外来種」を選定しました。その中でも最も優先度が高い対策種として、クビアカツヤカミキリ、アライグマ、オオクチバス、アメリカザリガニ、アマゾンチカガミなど11種が選定されています。

詳しくは、下記のホームページをご覧ください。

「本県において優先的に対策を行う必要がある外来種について」

栃木県HP：https://www.pref.tochigi.lg.jp/d04/gairai_priority.html

<その他の生き物>

●イノシシや熊などが出てきているという情報を聞きますが、自然界に動物が住みづらくなっていることや、災害が多く発生していることなどによって生き物が変化しているのかと思います。人間にとっても真面目に考えなければいけないことであると思います。

●通勤路が変わり、毎朝峠道を通っています。すると、カモシカやサル、シカやイノシシなど大型の哺乳類と出会う機会が増えました。足利の里山で糞は見たことがありましたが、カモシカを見ることができて良かったです。その反面、大型の哺乳類が里に近づき、農作物の生産者の方は困っているのだろう・・・そう考えると素直に喜べない問題です。

●2、3年前までは毎晩イノシシを見かけたが、ここ最近ではイノシシが減った代わりに、シカをよく見かけるようになった。夕方から夜にかけて、毎日のようにシカの鳴き声が聞こえてくる。

●長途路川の土手でヘビ（特にマムシ）が見られなかった。3年くらい前まで早朝ウォーキングで、一夏で10匹くらい車にひかれたものを見かけたものです。今年は1匹か2匹でした。

- 今年の夏は雨が多く、コケが増えた。
 - ・2月の山火事でイノシシをあまり見かけなくなった。
 - ・シカとキョン？が増えて昼間でも鳴き声を聞くようになった。

●クモについて、昨年ほどは変わったクモに遭遇できていなかったのですが、ゴミグモは変わらずに居ました。オニグモは夕方になると巣の真ん中に出てきていました。日中はどこかに隠れているのでしょうか。子どもの頃は夏の夕方や雨上がりに巣を一から張るようすを見られたものですが、今はその作業工程に出くわす機会がありません。雨上がりのクモの巣に残る雫の美しさは今も好きなままです。

<気候・自然環境の変化など>

●今年は自然環境が変化しているのを感じた。大雨・猛暑などで生き物にも変化があったように思う。チョウチョ類はとても数が少なかったように思う。

●最近、川の法面の樹木を伐採したり、神社の鎮守の森を丸裸にしたり、またクビアカの被害木が1本出たといつて周辺の桜の木を伐採したりと・・・なんでもかんでも伐採してしまうのが気になる。人間から見て気持ちは分かるが、生態系からの見方もあるのではないかと思う。

●まわりの環境が大きく変わり、田んぼは休耕田で荒れたり太陽光発電パネルで覆われたりしている。農業用水も水不足のため、めだかやどじょうなど全く見られなくなり、残念。

●年々田んぼが耕作放棄され荒地が多くなっています。また、太陽光パネルがびっくりするほどふえています。足利の農業はどのようになっていくのでしょうか。

●2019年の台風、豪雨による河川越水被害の対策で、河川整備が進み、人の生活には良いものの、動植物のすみかや生活に悪い影響があるのではと少し心配です。(渡良瀬川の河原の林などがなくなり、キジがあまり見られない。袋川、名草川などもコンクリート堤防ができています。)

<全体的な感想>

●広い範囲でレポートしたいと心掛けたいとおもっています。

●今期は2年目なので用紙等の使用方法は理解していましたが、なかなか外出をしなかったので町内ばかりで判別できるものだけの調査になってしまいました。あと、メモを取り忘れて日付など不明になってしまったのを気を付けたいです。

●ふつうに過ごしていると分からない身近な動植物も、環境レポーターをやっていると気づくことができよかったとおもいました。

●鳥・植物は、もっと勉強して調査したいし、今後またやるならば写真を活用してみたいとおもいます。

●学校の帰り、見つけるのが楽しみだった。

● 日常の中で自然に目を向けられ、とても楽しかったです。また、例年に比べてアゲハやツバメの数が少ないと感じました。

● 雨の日が多く調査があまりできなかったが、できるかぎり調査ができたので良かった。

● 環境レポーターに参加してからは季節の変化に敏感になり、散歩のときもいろいろなものに目が向くようになった。

小さなカレンダーを作って手元に置き、気付いた時や発見したときに忘れず記入するようにしたらまとめる時も便利。

もっと勉強して調査したい、楽しかったとのご感想をいただき嬉しく思います。知識が増えることでもっと調査が楽しくなると思いますが、見つかる生き物も増え、感じることも、考えることも変わってきます。皆さんの調査がより充実したものになることを祈っております。またこのレポーター事業でも皆さんの知識を深めるお手伝いとして、検討委員の先生方への質問を受け付けておりますので、ぜひお気軽に質問・疑問をお寄せください。

また、小さなカレンダーを作って手元に置くという工夫をご紹介いただきありがとうございます！ 筆者も見つけたものを全て調査結果に反映したいのですが、いつ見たのか、どこだったのか忘れてしまうことが多々あります……。皆さんも調査のコツやまとめ方の工夫などありましたら、ぜひご紹介ください！

● コロナで外出ができなかったため、家の近くや、学校しか調べられませんでした。

● コロナウイルスの影響で外出も思うようにできなかった。

● コロナの影響で外に出る機会が減り、昨年より調査ができなかった。来年はもっと外に出て調査できるといいなと思った。

今年もコロナウイルスの影響が続き、特に8～9月は栃木県でも緊急事態宣言が発令されるなど外出を控えなければならぬ期間が長く続きました。制限された中で活動となりましたが、量の多い少ないに関わらずご報告いただいたことに大変感謝しております。

次年度こそコロナウイルスの感染が落ち着き、皆さんも自由にのびのびと調査活動ができるといいなと祈っております。引き続き体を大切にして過ごしましょう。

● 昨年さくねんに引き続き調査ひ つづ ちょうさに参加さんかさせていただき、昨年さくねんよりも早い時期はや しきからスタートすることができたので、さらに動植物どうしょくぶつの観察かんさつを楽しむことができました。

生物せいぶつの種類しゅるいの判別はんべつに迷うことが多くありましたが、写真しゃしんを環境政策課かんきょうせいさくかに送り、とても丁寧ていねいに調べて回答かいとうしていただきました。回答かいとうを見てさらに調べる意欲いよくがわきました。対応たいおうしていただきました検討委員けんとういいんの先生方せんせいがたや職員しょくいんの皆様みなさまに感謝かんしゃもう申し上げます。

● この先さき、地球温暖化ちきゅうおんだんかが進んで気候きこうそのものがどう変わっていくのか、その中なかで、動植物どうしょくぶつが増減ぞうげんを繰り返しながら、どう子孫しそんを残していくのか、気になるところであり、これからもできる範囲はんいで継続けいぞくして観察かんさつを続けていければと思っております。本年度ほんねんどもお世話せわになりました。ありがとうございました。

近年きんねん地球温暖化ちきゅうおんだんかの影響えいきょうが顕著えいきょうになってきており、生態系せいだいけいにも変化へんかがあらわれています。1年ねん、2年ねんの調査ちょうさでは分からない変化へんかも、5年ねん、10年ねんと積み重ねていくことで気づくことができるのではないかと思います。レポーターの皆さんの報告ほうこくから読み取れる変化へんかも多々あります。皆さんにはぜひ今後も可能な限り調査ちょうさを継続けいぞくして頂ければ幸いです。

また、レポーターの皆さんから寄せられる調査ちょうさのご感想かんそう（調査ちょうさをする中で気づいた変化へんかなど）も足利市あしかがしの自然しぜんにとって大変貴重たいいんきちょうな情報じょうほうです。今後こんごもちよとしたことでも構かまいませぬので、ぜひ率直そつちよくなご感想かんそうをお寄せください！

今年度こんねんどもたくさんのご報告ほうこく・ご質問しつもんありがとうございました。

